

第4回 馬淵川河川整備学識者懇談会 議事概要

平成21年3月16日(月)

ユートリー 多目的中ホール

主要な意見の概要

1.馬淵川アンケート調査結果について

- 1 複数回答や記入し忘れ程度のものは、意見として決して捨てるには及ばないように思いますので、たくさんの人の意見を生かすという形で、なるべく拾い上げたほうが良いと思います。
- 2 アンケートの集計方法については、別途整理して、地域の皆様にも公表したいと考えておりますので、再度アンケートを整理しながらご相談させていただきます。

2.馬淵川水系整備計画（素案）について

①治水について

- 1 狭窄部といっても、どこが狭窄部の区間なのだというふうに分かっている方は少ないと思いますので、括弧書きなりで場所を入れていただきたいと思います。
- 2 指定区間の目標がありますが、平成16年9月、平成18年10月の洪水に対して宅地の安全性を向上させるために、20年に1回の確率というのは、この文章ではわかりにくいので、わかりやすく工夫された方が良いと思います。

②利水について

- 1 流況について4月のところで剣吉と下流の大橋が逆転していますが、下流側の水が少なくなるということはほとんどありませんので、特別な状況があれば別ですが統計期間を統一して直されたほうが良いと思います。

③環境について

- 1 「コアジサシの営巣」について、繁殖できる環境がもう馬淵川からなくなってしまったという感じがしますので、どう表現したら良いのかと感じています。
- 「ウミネコの群れがほぼ通年観察される」とありますが、11月から4月くらいにかけては、他のカモメの群なので「カモメの仲間」というふうにしたほうが良いと思います。
- 「コチドリやイソシギが渡り鳥」と書いていますが、馬淵川でのこの2種類は繁殖種なので、「春から夏にかけては、ここで子育てし、渡りの季節になると、他のシギやチドリ、カモの仲間がたくさん通過していきます」という表現だと間違いのないと思います。
- 典型性の鳥類のところに「カモ」と書いていますが、カモという種類がないので、「カモの仲間」にする方が良いと思います。
- 「ハリエンジュ」について、一般の方はニセアカシアでなじんでいますので、「括弧書きでニセアカシア」ということを記述した方がわかりやすいのではと思います。
- 「ホタル」などは、ぜひ移入ということをしてないように、県内であっても他から持ち込んだり、放さないというのも外来種のところ書き込んでいただければと思います。
- 「ギバチ」は限られているというふうな文章にしたほうがわかりやすいと思います。
- 2 治水は大変だというふうな印象があるのですが、河川に関しては、今の書きぶりだと一貫してずっと良かったし、今後も維持していきましょうという雰囲気を読めますが、果たしてそういう書きぶりでの地域の事情をあらわしているのかどうかという感じを受けました。特にアンケート調査で住民の意見を見ていくと、今後悪くなるという人が25%くらいということで、こういう意識とこの書き方にギャップを感じました。
- 3 この環境に関して、馬淵川というのが我が国でも非常にすぐれた環境を持っているということを認識した上で、引き続き継続的にやれる取り組みを頑張っていくのだというふうな姿勢で進めていくべきではないかなというふうに考えているところです。

⑤住民参加について

- 1 住民参加と住民連携について、具体的に町内会、地域の団体を育成するという視点や団体も作るという視点も書き込んでいただけたらと思います。

- 2 国と県が全部やってくれるという印象を持ちました。住民との連携というのはいくらたくさん出てくるのですが、つけ足しのような印象にしか見えない。
国と県と市町村、そして住民との役割の確認と連携をやらなければいけない。そこに住民がきちっと参加していく仕組みをつくっていかなければいけない。
そのあたりの課題が書かれていないので、すべて国がやってくれるかのような印象になってしまっていると思います。

⑥その他

- 1 人間の歴史がほとんど出てこないという印象を受けていまして、かつ洪水や治水のところでも、具体的に人間のことが書いていないという感じがしています。例えば都市の成長とか、それから農村部、山村部の土地利用の変化、そこにかかわる農家の変化、それから家族の変化、これからどういう形で地域社会が変化していくのかということとあわせていかないと、将来の計画というのは成り立っていかないとと思います。

- ★3 人間の社会構造、河川構造がどういうふうに変わってきたかというのは、なかなか行政レベルまでは来ていないので、文章で気がついた時点で少しずつ案を出していただければと思います。

以 上